

從分析心理學觀點探討《鬼滅之刃劇場版 無限列車篇》 —以「夢」「死與再生」「原型」為切入點—

沈 美雪

中國文化大學日文系 副教授

摘要

以吾峠呼世晴的漫畫《鬼滅之刃》為原作的動畫電影《鬼滅之刃劇場版 無限列車篇》在日本於 2020 年 10 月 16 日上映，並於公開後第 73 天收入達 324 億日圓，更新了由宮崎駿導演於 2001 年推出的《神隱少女》所締造的票房紀錄。至 2021 年 5 月，其日本國內收益超過 400 億，成為日本影史以來最賣座的電影。

本論以《鬼滅之刃》劇場版的內容為探討對象，從文學研究的角度對「無限列車篇」做文本分析，而援用的理論主要則為由榮格創始的分析心理學中關於“夢”“無意識”“原型”“自我”等構成榮格派心理學說的一些論述為主要依據，並考察作品內涵的訊息性及多重的意義構造。而劇場版動畫大受歡迎可能是多種因素共同作用的結果，但同時也是因為本作品的主題與訊息使閱聽人重新意識到普世價值的重要，超越了年齡與性別，觸動了許多人的內心。而經分析後，得知作品中描寫了許多對照性的比較，例如鬼與人、黑夜與黎明、死與再生等多重對比。此外，本論文也闡述了「無限列車篇」中對「強」「不滅」真正意義的解釋。

關鍵詞：《鬼滅之刃劇場版 無限列車篇》、夢、死與再生、原型、
分析心理學

受理日期：2021 年 08 月 31 日

通過日期：2021 年 10 月 29 日

DOI:10.29758/TWRYJYSB.202112_(37).0008

**The Study of *Demon Slayer: Kimetsu no Yaiba the Movie: Mugen Train* with Analytical Psychology:
Focusing on Dream, Death and Rebirth, Archetype**

SHEN, Mei-Hsueh

Associate Professor, Chinese Culture University

Abstract

Demon Slayer: Kimetsu no Yaiba the Movie: Mugen Train is the movie version of the anime that was screened in Japan on October 16, 2020, the original story by Koyoharu GOTOUGE. 73 days after its release, it surpassed the sales record of Hayao Miyazaki's 2001 film *Spirited Away*, with a total revenue of over 400 billion yen, it has become the best-selling movie in the history of Japanese cinema.

This paper investigates the contents of *Demon Slayer: Kimetsu no Yaiba the Movie: Mugen Train* with the approach of some concepts such as "dream", "unconscious", "archetype", and "self" in Analytical Psychology that are the core of the theory founded by Carl Gustav Jung. The movie hit may be the result of a combination of various factors, and this is also because the theme and many messages of this work remind us of universal values and touch the hearts of many viewers, regardless of age. The survey reveals many contrasts between demons/oni and humans, nights and dawns, death and rebirth in the film. Moreover, it indicates the true meaning of strength and immortality through the film.

Keywords: *Demon Slayer, Kimetsu no Yaiba the Movie, Mugen Train*, dream, death and rebirth, archetype, Analytical Psychology

分析心理学から見る『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』 —「夢」「死と再生」「元型」を手掛かりとして—

沈 美雪

中国文化大学日本語文学科 准教授

要旨

2020年10月16日に公開された吾峠呼世晴のマンガ『鬼滅の刃』を原作とする『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』が、『千と千尋の神隠し』の興収記録を塗り替え、さらに翌2021年5月に日本における累計興行収入が前人未踏の400億円に達したと報道された。

本論は、こうした『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』の内容を取り上げ、文学研究の立場からのアプローチとして、C.G.ユングが創始した「分析心理学」における「夢」「無意識」「元型」「自己」など、ユング派心理学の中核をなすいくつかの理論を援用しつつ、「無限列車編」のテキスト分析を試み、作品が内包するメッセージと重層的意味構造について考察するものである。そして、『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』のヒットには、結果として、さまざまな要素が重なったと考えられるものの、改めて普遍的な価値観を思い出させてくれる同作のテーマやそこに込められた多くのメッセージが、年齢や性別に関係なく、多くの人々の心に響いたとの結論に達したのである。そこには、鬼と人間、闇夜と夜明け、死と再生など、幾重にも巡らされた対比や、また、作品の含有する、強さと不滅の本当の意味とが、同作の考察を通して明らかとなったのである。

キーワード：『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』、夢、死と再生、
元型、分析心理学

分析心理学から見る『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』 —「夢」「死と再生」「元型」を手掛かりとして—

沈 美雪

中国文化大学日本語文学科 准教授

1. はじめに

2020 年末に日本映画の歴代興行記録が更新された。2001 年公開の宮崎駿監督の『千と千尋の神隠し』が、およそ 20 年にわたり堅持していた、邦画、洋画を合わせた興行収入歴代 1 位の記録 (316 億) を破ったのは、吾峠呼世晴のマンガ『鬼滅の刃』を原作とする『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』¹である。そして同作の快進撃は、2021 年に入ってから止まることを知らず、2021 年 5 月 23 日までの興行収入合計が 400 億 1694 万円に到達し²、日本国内での興行成績が 400 億円台という記録を叩きだした唯一の日本映画でもある。

『鬼滅の刃』は、大正時代の日本を舞台に、主人公の少年・竈門炭治郎ら「鬼殺隊」が鬼たちと戦いを繰り広げる物語であり、2016 年 2 月から 2020 年 5 月まで『週刊少年ジャンプ』で連載していた。人喰い鬼に家族を惨殺され、唯一生き残った妹の禰豆子も、鬼に変貌してしまう。妹を人間に戻し、そして家族を殺した鬼を討つため、炭治郎は妹を連れて旅を始める、という内容である。ただ、『週刊少年ジャンプ』の他の連載作品と比較した場合、仲間と努力して共闘し、敵を倒して (試合に打ち勝って) 勝利を手に入れるという図式など、共通する特徴は見られるものの、親子兄弟や師弟関係を含む、家族愛を中心とする種々の感情表現などが丁寧に語られるなど、少年のバトルマンガとしては珍しいテーマで、異色の作品と言える。

¹ 『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』は、監督・外崎春雄、制作・ufotable、配給・東宝／アニプレックスのアニメ映画で、音楽を梶浦由記と椎名豪が担当するなど、基本的には、2019 年版テレビアニメの制作陣営と声優陣が続投する形となった作品である

² 「「鬼滅」映画、400 億円を突破」『朝日新聞』朝刊、2021 年 5 月 25 日、p.27。

また、劇場版『鬼滅の刃』のヒットには、さまざまな要素が重なった結果ではあろうが、原作マンガ自身の良さがなければ、これほどのヒットにつながることはなかったであろう。

本論は、こうした『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』を取り上げるものである。しかし、出版社やアニメ制作者側の戦略や劇場版アニメが引き起こした社会現象などを論じるものではなく、文学研究の立場からのアプローチとして、C.G.ユング（Carl Gustav Jung）が創始した「分析心理学」（Analytical Psychology）における「夢」「無意識」「元型」³「自己」など、ユング派心理学の中核をなすいくつかの理論を援用しつつ、「無限列車編」のテキスト分析を試み、作品が内包するメッセージと重層的意味構造について考察するのが目的である。

2. 『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』における夢と無意識の構造

2.1 『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』について

『鬼滅の刃』の原作マンガは、以前より人気のある作品であるが、2019年のテレビアニメ化⁴を契機にますます人気が高まり、さらに2020年の劇場版アニメの公開後は、社会現象になるほどのビッグタイトルとなった。これは、少年誌の連載作とは言え、残酷なシーンがかなりあるにも関わらず、2020年の劇場版は老若男女を問わず、あらゆる層の観客に幅広く支持されたもので、アニメ映画としては、むしろ珍しい現象である。しかも、このブームは、すぐに収束するような一過性のもものではなさそうである。具体的には、2019年に放送された全26話のテレビアニメ「竈門炭治郎立志編」は、主人公らが「無限列車」に乗り込むシーンで物語が完結するが、その最終話

³ カール・グスタフ・ユング著、林道義訳（1999）『元型論〈増補改訂版〉』紀伊國屋書店、p.12-14,464-465。なお、原書は1921年初版である。

⁴ 原作第1巻から第7巻の冒頭までの物語を映像化した「竈門炭治郎立志編」は、2019年4～9月の土曜日23:30～24:00にTOKYO MXで初放送された、いわゆる深夜アニメである。その後、劇場版のヒットに伴い、フジテレビや関西テレビなどのテレビ局が、ゴールデンタイム（視聴者の多い19時台から21時台にかけての時間帯）で再放送した。

からつながるのが劇場版の内容であり、原作マンガの第7～8巻、つまり単行本2冊分のストーリーに該当する。これは、原作マンガが全23巻で構成されていることから見れば、「竈門炭治郎立志編」と「無限列車編」とで、全体の3分の1しか映像化されていないわけで、テレビアニメが起承転結の「起」の部分、劇場版「無限列車編」のストーリーが「承」の始まりの部分に相当する、ということになり、今後、ますますの盛り上がりが予想されるのである。なお、劇場版がヒットした理由として、作品そのものの良さはもちろんあるが、他にも、いくつか挙げられる。例えば、沈（2021）は、昨今のコロナ禍という状況において、「病」と「薬」を描く同作が、時世の雰囲気にもマッチしていると指摘しており⁵、国際日本文化研究センター前所長の小松和彦も、同作のヒットについて、次のような見解を示している。

先が見えない時代だが、世の中は変わらざるを得ない。そんな矛盾を抱えている時代に、鬼退治でカタルシスを得ているということもあると思うんです。今回も新型コロナウイルス感染症によって世の中が混沌としてきていますよね。何かたまっている負のエネルギーみたいなもやもやしたものをスカッとしたいという気持ちがあるのではないのでしょうか⁶。

また、倫理学者の竹内整一も、「はかなく弱い存在だからこそ、人間は思いを強く持ち、信頼し合い、ともに立ち上がることができる」と訴えている。それがコロナ下に生きる人たちの切ない共感を呼び、静かに力づけているのではないか⁷と語っている。つまり、コロナが蔓延している昨今において、人と人とのつながりや関係が、物理的にも精神的にも疎遠になりがちであり、そうした中、助け合いや

⁵ 沈美雪（2021）「新冠疫情下の「鬼滅」奇蹟：《鬼滅之刃》中の疾病書寫、愛、残酷與慈悲」《輔仁外語學報：語言學、文學、文化》第17号、pp.1-38。

⁶ 「「鬼滅」と鬼退治と日本人 国際日本文化研究センター名誉教授・小松和彦さん」『朝日新聞』夕刊、2021年1月16日、p.2。「鬼」に関する研究に『鬼と日本人』（2018年、角川ソフィア文庫）などがある。

⁷ 「（社説）「鬼滅」のヒット はかなさを力に変えて」『朝日新聞』朝刊、2020年12月30日、p.10。

家族愛、そして弱きを思いやる気持ちなどといった、忘れかけていた大事なものを同作に見だし、多くのファンたちが、作品に現実社会をリンクさせ、勇気づけられたといった点もまた、看過できないだろう。

ではここで、論を展開する前に、原作全体の一部を切り取り、2時間ほどの映画に仕上げたそのストーリーはどんなものか、公式サイトに掲載されたあらすじを以下に紹介する。

蝶屋敷での修行を終えた炭治郎たちは、次なる任務の地、《無限列車》に到着する。そこでは、短時間のうちに40人以上の人が行方不明になっているという。禰豆子を連れた炭治郎と善逸、伊之助の一行は、鬼殺隊最強の剣士である《柱》のひとり、炎柱の煉獄杏寿郎と合流し、闇を往く《無限列車》の中で、鬼と立ち向かうのだった⁸。

なお、「無限列車」の戦いにおいて、「夢」は極めて重要な働きを持っている。例えば、同作に登場する無限列車を操るのは、下弦の壱・魘夢という十二鬼月⁹なのだが、彼の術に掛かった人は眠りに陥り、夢を無限に見せられ続けるというもので、物語の前半においても、鬼殺隊4人の夢が描写されている。こうした点を踏まえ、続いて、同作の主要要素である「夢」に関する分析心理学の理論を切口として、「無限列車編」の内容に触れつつ、その構造を論じたいと思う。

2.2 「無限列車」と「夢」(dream)

心理学の研究分野における夢分析の重要性について、最初に明確に示したのがフロイトで、フロイトは、『夢判断』における夢とは「ある(抑圧された)願望の、(偽装した)充足である」¹⁰としている。

⁸ 『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』公式サイト「あらすじ」紹介より引用、2021/2/6 閲覧、<https://kimetsu.com/anime/story/>。

⁹ 「十二鬼月」とは、『鬼滅の刃』に登場する鬼の始祖・鬼舞辻無残の直属配下にある強力な12体の鬼のことで、特徴として、下弦の鬼には片方の眼球のみに階級と数字、上弦の鬼には両目に階級に応じた数字と「上弦」の文字が刻み込まれている。

¹⁰ 河合隼雄(1993)『ユング心理学入門』培風館、p.143。

一方、そうしたフロイトに学び、また、後に袂を別ったユングは、「無意識内の現実状況を、象徴形式で、自発的に自己描写したもの」と定義している（CW 8,para.505）。夢と意識との関係は根本的に補償関係である」と、夢をより広く考えたらしい¹¹。また、ユングは、夢の解析を治療における重要な手段だと考え、臨床の現場に応用する多くの事例を発表した。そして、ユング派心理学において中核をなす重要な夢の役割とその分析法は、「無限列車編」の解説においても非常に重要であると考えられる。炭治郎たちに与えられたそもそもの任務は、列車の乗客や先遣隊員が行方不明になった原因を調査することであり、なお、こうした状況は、2019年に放送されたテレビアニメの最終話「新たなる任務」において、魘夢によるものであると、既に明かされている。魘夢という鬼は、その名の通り、鬼が持つ独特な異能力である血鬼術を使い、人を夢の眠りに誘い込み、「精神の核」を破壊して廃人にしてしまう。行方不明になった乗客や隊士は、恐らく、既に彼の腹の中にいるのであろう。このように、「無限列車編」の本編においては、夢が重要な解説の手掛かりの一つなのである。では、こうした点を踏まえ、本節では、「無限列車編」における夢の諸要素から考察したい。まずは、ユングも称賛し、羨望のまなざしを送った、ユング派学者であるエーリッヒ・ノイマンの代表作『意識の起源史』（1949）での言及¹²について述べてみたい。ノイマンは、意識がゼロになる状態を「ウロボロス状態」¹³と称し、心のウロボロス段階を最も簡単に再発見できるのが夢の中においてであると、以下ように述べている。

夢の世界へ沈んで行くと、人類発達の後期の所産である自我

¹¹ A・サミュエルズほか著・山中康裕監修（1993）『ユング心理学辞典』（創元社）における「夢」の解説、p.162。

¹² エーリッヒ・ノイマン、林道義訳（1984/1985）『意識の起源史』（上・下）紀伊国屋書店。原書は1949年初版である。

¹³ 『意識の起源史』の訳者である林道義は「ウロボロス」について、「ウロボロスは蛇が自らの尾を食べていることによって自足を表わし、また円をなすことによって完全な一体化の状態、すべてのものが未分離のうちに融合し、渾然一体をなしていることを象徴している」と解説している。ノイマン、前掲『意識の起源史（下）』、p.682。

や意識は再び解体されてしまう。夢の中に現われる像はすべて内的過程のイメージ・シンボル・投影であるため、夢の中で自我は、それと気づかずに、内的世界を体験している¹⁴。

「無限列車編」において、鬼殺隊士の4人、炎柱・煉獄杏寿郎、主人公の竈門炭治郎およびその同期の我妻善逸と嘴平伊之助らが眠りに陥ったのは、魘夢の血鬼術に掛ったためである。ただ、そこで見る夢の内容は、もちろんその主体自身の体験によって生み出されるものであり、ここでは、こうした夢について考察したい。なお、各々の見た夢が描かれている順序は、マンガ版と劇場版とで異なっているが、本論では、劇場版の順に沿って考察していく¹⁵。まずは、炭治郎の夢についてである。彼はふいと気が付くと、自分が故郷の雑木林に立っていた。そして、雪を踏む音がしてはっと振り返ると、亡くしたはずの、幼い妹と弟の二人がいる。また、自身は、隊士服ではなく、普段の格好をしていた。さらに家に戻ってみると、まるで、2年前の惨劇¹⁶が起きる前の日に時間が戻ったかのように、母と他の弟妹も生きている。もちろん、これは、鬼の魘夢によって眠らされたことで見た夢であり、いわば、そのきっかけは外的刺激によるものである。しかし、夢の内容そのものは、夢み手の体験に基づくものであり、炭治郎のそれは、彼の深層に潜む望みである「母と弟妹が生きている世界」が現れたものだと言えよう。つまり、分析心理学の観点でいえば、夢の最も普遍的かつ重要な機能である、意識に対する「補償作用」(compensation)によるものである。

一方、「単純な補償」と分類¹⁷されうる炭治郎のこうした夢に対

¹⁴ ノイマン、前掲『意識の起源史(下)』、p.436-437。

¹⁵ 夢見の順番について、原作マンガでは善逸、伊之助、煉獄、炭治郎の順であるが、劇場版では炭治郎、善逸、伊之助、煉獄となっている。

¹⁶ 炭治郎は、父親が病死してから、6人兄弟の長男として一家の重要な働き手となって家計を助ける。2年前の惨劇も、炭を売りに町へ下山したために家を空けていた夜に、母も含めた家族が惨殺され、長女の禰豆子も、無残によって血を取り込ませられ、鬼に変貌したものである。

¹⁷ 河合隼雄はユングの理論を基礎に、「夢の機能」を「単純な補償」「展望的な夢」「逆補償」「無意識の心的過程の描写」「予知夢」「反復夢」という六つの類型に分類している。河合隼雄、前掲『ユング心理学入門』、pp.152-165。

して、善逸と伊之助のそれは、「展望的な夢 (prospective dream)」¹⁸に分類されるものと考えられる。善逸は、鬼の禰豆子に一目ぼれをし、以来、彼女にいちずな愛情を示す。そんな彼は、夢の中で、人間の姿をしている禰豆子の手を引いて林を走っているのであった。また、獣同然に育ち、負けず嫌いで好戦的な野生児である伊之助は、炭治郎たちと行動を共にするようになってから、仲間の大切さを知り、認められようとする言動も徐々に現れるようになる。そして彼は、明らかに炭治郎、善逸、禰豆子の3人を動物化した子分を連れ、親分として洞窟を楽しく探検している「リーダーとして慕われる夢」を見る。なお、夢のこうした構図は、おとぎ話「桃太郎」のパロディと考えられ、「鬼」退治の物語である『鬼滅の刃』に桃太郎の話を登場させるあたりにユーモアが感じられる。そして、善逸と伊之助の二人の夢は、ユングのいう「自己実現」が可能な夢であり、本人の意識の努力によって実現の可能性が左右される夢でもあろう。

続いて、「無限列車編」のもう一人の主人公とも言える、4人目の炎柱・煉獄杏寿郎の夢についてである。彼の夢は、実際にあったことがそのまま夢に繰り返される「反復夢 (repetition dream)」¹⁹に分類されるものであろう。これは、補償作用を多少なりとも含む前述の二つのタイプの夢とは明らかに異なり、現実場面のことが夢の中に反復されているものである。具体的な夢の内容は、煉獄が《柱》になったことを父親に報告した日の出来事である。彼の父は、昔は鬼殺隊の《柱》として、熱心に煉獄兄弟に剣術を教えていたが、今は「柱になったから何だ／くだらん…どうでもいい」²⁰ (第7巻、p.58) と、冷たく言い放つのであった。そして煉獄は、その日のことを夢で再び見ることになったのである。なお、こうした煉獄の反復夢は、彼の背景を補足説明する役割を持っているとも考えられる。

¹⁸ 「展望的な夢」について河合は「夢が単純な補償の域を超え、遠い将来への一つのプランのような意味をもって現れるもので、通俗的にいわれるビジョンという言葉がこれに当てはまるだろう」と解説している。河合隼雄、前掲『ユング心理学入門』、p.154。

¹⁹ 河合隼雄、前掲『ユング心理学入門』、pp.163-164。

²⁰ 「／」はコマないしはフキダシの移動を示す。

煉獄は、「無限列車編」の前節に当たる「柱合会議・機能回復訓練」で初めて登場するキャラクターで、9人の《柱》の中で、水柱の冨岡義勇や蟲柱の胡蝶しのぶの二人を除く他の《柱》たちとの一斉に登場するという人物の一人である。そして、この時点では、まだ、それらの《柱》における個別の背景描写がなされていない。ただ、その後は、すぐに「無限列車編」へと話が展開するのである。そのため、炭治郎たちの夢は、説明せずとも、ある程度、視聴者に理解されるものの、煉獄の生い立ちなどは、まだ、明確に描かれていないのである。そこで、それを紹介する役割を彼の夢に担わせつつ、同時に、劇場版のキャッチコピーにもなった「心を燃やせ」というメッセージの提起としても機能しているのである。そして、彼の夢はこう続く。部屋から出てきた煉獄に、弟の千寿郎は、「父上は喜んでくれましたか？」と尋ねてくる。物心がつく前に他界した母に対する記憶が弟にはほとんどなく、昔は情熱のある人だった父も今はあのような様子である。煉獄は、弟のこうした境遇を不憫に思い、父上は喜んでくれなかったが、自分は決してくじけないと弟に告げ、さらに弟を力強く抱きしめ、次のように言葉を発した。

お前には兄がいる／兄は弟を信じている／どんな道を歩んでもお前は立派な人間になる！燃えるような情熱を胸に／頑張ろう！頑張って生きて行こう！寂しくとも！（第7巻、pp.60-61）

弟に剣術の才がないことは明らかであり、代々、炎の呼吸の使い手として名高き剣士の家系に生まれてきただけに、弟はいつか、自分の非力を嘆くのだろうとの思いからの励ましであった。さらに、煉獄は後に、「強さというものは 肉体に対してのみ使うものではない」（第8巻、p.36）と、上弦の鬼・猗窩座と対戦する際に言葉を放っている。これも、たとえ剣技に恵まれなくても、また、今は非力であっても、人の役に立つように、自分のできることを精いっぱいやれば、他人を思いやる、心の強き人なのであるとの思いが込められたものである。つまり、「どんな道を歩んでもお前は立派な人間になる」と弟に対して発した煉獄の言葉の真意はここにあるのだ。そ

して、こうした描写から、煉獄というキャラクターは、率直で心のうちに絶えぬ情熱を燃やし続ける人物であることが、「無限列車編」の序盤から既にうかがえよう。また夢を託すという意味においても、煉獄の夢は、本編の核心を突くという意味において、極めて重要な役割を担っている。

2.3 「精神の核」と「自己」(self)

ユングが提唱した「元型」(アーキタイプ/archetype)とは、同じイメージの源泉を共有し、そのイメージがもたらす心の特有な動き方や働き方を指すものである。それは例えば、夢の中で夢み手の心に浮かぶイメージや、宗教的・神話的テーマ、モチーフなど、元型のタイプは数多く存在している。「無限列車編」における夢の機能については前節にて述べたが、ここでは、本編における意識(consciousness)と無意識(unconscious)の構造について、さらに考察を進めたい。

パターン化された数多くある元型には、意識の中心としての自我(ego)の元型と、精神全体の中心として設定される自己(self)の元型とがある。そして、個人の意識行動や認識の主体である「自我」に対して、「自己」と訳されたセルフ(self)は、意識も無意識も含めた、心の中心であると同時に心の全体でもある。ユング派学者のジェームズ・A・ホールはこの「自己」の意味について、「一、心の全体、一つのまとまりとして機能する」「二、体制の中心的元型、自我の観点から見た場合」「三、自我の元型的基礎」の3点から、次のように述べている。

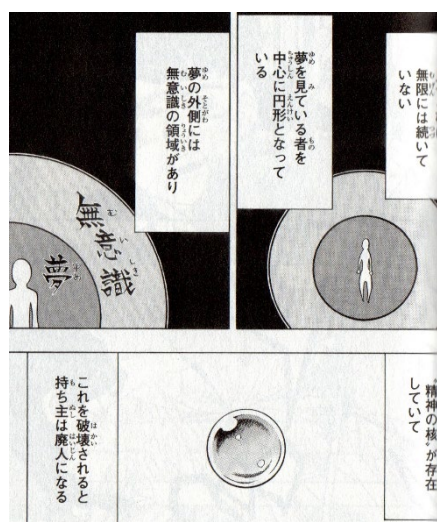
セルフは自我よりも包括的なものなので、自我によって、しばしばより高い価値をもつシンボル、太陽系の中心としての太陽、原子の中心としての核などのイメージで知覚される²¹。

なお、この自己(セルフ)の定義が、「無限列車編」に描かれてい

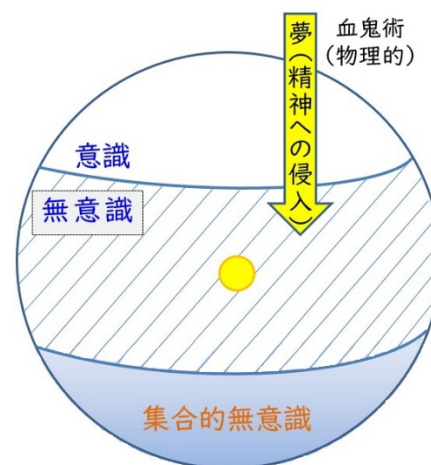
²¹ ジェームズ・A・ホール著、氏原寛・片岡康訳(1985)『ユング派の夢解釈—理論と実際』(ユング心理学選書(9)) 創元社、pp.17-18。

る「精神の核」の設定と、非常に類似していることが分かるだろう。そして、本編作中では、こうした「夢」や「無意識」、「精神の核」について、図(1)のような図をもって説明しているが、これを分析心理学における自我と自己の構造と併せて考察すれば、図(2)のような構図が認められよう。

図(1)夢と無意識(原作第7巻)



図(2)分析心理学から見る精神構図



○:精神の核/self

炭治郎たちが魘夢によって眠らされた序盤のシーンにおいて、魘夢は、「どんなに強い鬼狩りだって関係ない／人間の原動力は心だ精神だ／“精神の核”を破壊すればいいんだよ」(第7巻、p.52)と言う。

「無限列車編」における無意識領域の風景や、精神の核の設定などは、夢み手自身の思考機能の裏に潜むものが心象化されたものである。そして、魘夢は、精神の核を破壊することで相手を廃人化させるといった、恐ろしい血鬼術の持ち主であるが、彼は、直接に人間の精神領域には踏み込まない。なぜなら、他人の夢への侵入は危険を伴うもので、夢や無意識に踏み込んだ場合、稀にはあるが、自我の強い人に共鳴してその影響を受けたり、または、逆攻撃されたりする場合があるためである。それ故、魘夢は「幸せな夢を見せるという条件を餌に現実から逃避したい者を集め操り」²²、手下として利用したのである。そして、こうした協力者のうち、伊之助を担

²² 吾峠呼世晴(2019)『鬼滅の刃公式ファンブック 鬼殺隊見聞録』集英社、p.110。

当するある若い娘は、気味の悪い洞窟をさまようことになる。これはもちろん、伊之助の無意識領域がイメージ化された空間であり、言い換えれば、彼が育った深く暗い森の投影なのである。さらに、人間とも獣ともつかぬ何か得体の知れぬ「裸猪」が突然に現れ、侵入者の彼女を追いかけ回す。なお、原作では、「無意識領域には通常誰もいないはずであるが／意識の強い者——つまり、異常に我が強い奴の無意識領域には人が存在することがある」（第7巻、p.102）ともキャプション（地の文）で解説されている。さらに、続く善逸も似たような状況である。彼を相手にする短髪の男は、何もないただの暗闇の中に立たされている。そして、彼の背後から、大きな植木バサミを持っている恐ろしい形相の善逸が現れ、「ここに入ってきていいのは禰豆子ちゃんだけなんだよ殺すぞ」（第7巻、p.102）と怒り狂い、攻撃してくる。こうして、結局は、かなりの時間が経過したものの、手下の人間は誰一人として、精神の核を破壊した者はいなかった。もっとも、自我の強さにより、無意識領域にまで姿を現す伊之助と善逸とは、厳密に区別すればその意味合いは違うが、二人とも異質な存在と言えよう²³。一般的な無意識領域（無人状態）が描かれているのは、炭治郎と煉獄である。こうした点を踏まえ、ここでは、夢と無意識、そして元型についてもう少し考察を進めるとし、この二人の戦いは、後に取り上げることにする。

人は一般的に、深い眠りに落ちると、自分が夢を見ていることを知覚できない。しかし、まれに、「自分は夢を見ているんだ」と自覚する場合もある。ただ、いずれにしても、問題は、いかに今の夢から目覚めるかということである。また、炭治郎の場合は、ユングが提唱した自己元型の主要な面の一つである、理性的な知恵を表す「老賢者」（wise old man）の象徴をもって説明することができる。そして、炭治郎の夢においては、少なくとも、二つないし三つの場面で老賢者の出現が認められる。一つは、小川の水くみ場に水桶を下し

²³ 簡略に言えば、伊之助は野生の育ちであるが故に原始的自我が現れ、善逸はもう一人の人格を有するものという設定に沿った描き方であると思われる。

たときに、黒い洋服を着ているもう一人の自分の顔が水面に映っているのを見た場面である。そして、水面に映る自分は、「起きろ!攻撃されてる/夢だ/これは夢だ!!目覚めろ!!起きて戦え!!」(第7巻、pp.80-82)と叫んだのである。この警告の言葉により、炭治郎は、列車にいるはずの自分を思い出したが、次の瞬間にはもう場面が変わり、かつて家族と過ごした日々の情景が浮かぶ。つまり、彼は、自分が夢に陥ったのは敵の血鬼術による攻撃だと認識したものの、夢から目覚める術を知らなかったのである。そして、仲間の元に早く戻らねばと焦る炭治郎は、林に入って鬼を探してみる。しかし、鬼はどこにもいない。すると、背中合わせに誰かが現れ、「炭治郎、刃を持って/斬るべきものはもう在る」(第7巻、p.105)と、囁くように語りかけてくる。炭治郎は、その姿は見えないものの、それが亡くなった父だと直感した。なお、こうした場面については「水面に映った炭治郎の姿/禰豆子の箱と背後に現れた父の言葉/それは/炭治郎自身の本能の警告/すでに気づいているはずの“小さな手がかり”を炭治郎が理解できていないため、本人や父の姿を借りて出現し、警告した」(第7巻、p.104-106、下線は原文傍点)とキャプションで説明されている。つまり、もう一人の自分も父の姿も、いわゆる「老賢者」という「集団的無意識」²⁴における代表的な元型にほかならないのである。そして、「無限列車編」の内容には、さらに「太陽神話」という神話的元型が用いられていることについて、次節にて考察を進めたい。

3、「太陽神話」における「死と再生」のモチーフ

自然に関する神話や伝説において、「太陽」は、民族を問わず多くに見られるモチーフの一つである。また、『世界の神話伝説図鑑』に

²⁴ ユングは、無意識の領域を「個人的無意識」と「集合的無意識」(普遍的無意識)に分類し、そして「集合的無意識」は集団単位として知覚されるイメージとして、「無意識が個人的なものばかりでなく、超個人的なもの、遺伝的カテゴリーや元型をとった集合的なものをも含んでいる」としている。C.G.ユング著、松代洋一・渡辺洋一訳(1995)『自我と無意識』第三文明社、pp.19-36。原書は1904年初版である。

て、「太陽が消え、世界から食べ物や暖かさや昼夜の違いがなくなる、という神話は多くの文化に見られる」²⁵と解説されているように、日本神話にも、太陽神のアマテラスが天岩戸に隠れたために世界が暗闇に包まれる、という内容が記紀神話として伝えられている²⁶。そして、『鬼滅の刃』においても、「太陽」は極めて重要なキーワードであり、確実に鬼を滅ぼせる手段として、さまざまな場面において多様に描かれている。例えば、炭治郎が「日の呼吸」²⁷の使い手であることも、同作における太陽の重要性がうかがえるものである。では、次節において、こうした「太陽神話」に内包されている「死と再生」のモチーフから、同作で描かれている主な二つの戦闘を取り上げ、それぞれの戦いの内容とそのメッセージについて考察する。

3.1 炭治郎と魘夢の戦い―「その刃で、悪夢を断ち切れ」

物語の設定において、鬼殺隊が鬼を滅ぼすには、鬼を太陽の光に晒すことや、「日輪刀」²⁸による斬首などの手段がある。つまり、どちらも太陽の力によるものである。そして、こうした弱点の設定により、全ての鬼は夜にしか活動できない。それ故、「太陽」の持つ意味や、「夜」との対比が、同作における極めて重要な設定となる²⁹。鬼は、日光を浴びると皮膚が灼けてしまい、さらに日光を浴び続けると、全身から火が燃え上がる。そのため、鬼は昼になると隠れ、彼らとの戦闘はもっぱら夜にしか行われぬ。また、「夜明け」は、このような鬼との戦闘の終了を意味すると同時に、敗戦を迎える「死」

²⁵ フィリップ・ウィルキンソン編・大山晶訳（2013）『世界の神話伝説図鑑』原書房、p.8。

²⁶ 河合隼雄（2016）『神話と日本人の心』岩波書店、pp.150-156。

²⁷ 「日の呼吸」は戦国時代の鬼狩の剣士が使っていた呼吸法であり、「始まりの呼吸」とも呼ばれ、すべての呼吸はここから派生する。吾峠呼世晴、前掲『鬼滅の刃公式ファンブック 鬼殺隊見聞録』、p.19。

²⁸ 「日輪刀」は「太陽に一番近い山である「陽光山」の砂鉄と鉱石を材料にして作られる」刀で、鬼狩に欠かせない武器である。吾峠呼世晴、前掲『鬼滅の刃公式ファンブック 鬼殺隊見聞録』、p.18。

²⁹ 鬼の始祖である鬼舞辻無残が鬼を増やすのも、青い彼岸花を探すのも、太陽を克服するための行動であった。作品内において、絶対的な強さを誇る無残は、日輪刀によって首を斬られても瞬く間に再生するため、彼を滅ぼせるのはもはや太陽の光しかない。

もしくは勝利による「再生」が、そのシンボルとして描かれている。

「無限列車編」は、こうした鬼との戦闘の一夜の出来事を描いたものであるが、ノイマンは、神話における未知なる強大な力との戦いを総括的に「竜との戦い」と称し、それを打ち負かすことが英雄の使命としている³⁰とした上で、その代表的な元型が「太陽神話」であるとし、次のように述べている。

英雄の「竜との戦い」の元型のうちに最も広く分布しているのは太陽神話である。その内容は、英雄が夕方、西方で夜の海一怪物に呑み込まれ、この子宮一空洞の内部でそこに現われるいわば竜の分身と戦い、勝利を納める。そして東の空に勝利の新しい太陽として、《不滅の太陽》として再生するというものである。あるいはもっともよくいえば、彼は自ら積極的に怪物から切り離すことによって、自らの再生を実現するのである³¹。

英雄が夜に敵と死闘を繰り広げるといった苦難に満ちた過程は「夜の航海」(night-sea journey)とも称され、そして、夜明けに「《不滅の太陽》として再生する」という太陽神話の構造と、そこに内包する死と再生のモチーフは、「無限列車編」においても繰り返されている。前節では、炭治郎の夢に内的過程として「父」が登場したと述べたが、「老賢者」のシンボルとして現れた、父の姿で忠告してくる「斬るべきものはもう在る」という言葉から、夢から目覚める手段として斬るべきは鬼ではなく、「自分の頸」であることに気付いた。つまり「“夢の中の死”が“現実の目覚め”に繋がる」(第7巻、p.107)と理解した炭治郎は、日輪刀で「自分の頸」をはねるのである。そして、これまでに述べてきた、夢の苦しい自覚の過程と、それから逃れる、もしくは克服するために自刃する行動は、まさに「夜の航海」が代表する苦難のプロセスであり、夢の中の死から目覚めた、現実における自分の再生へと移行するイニシエーションでもあ

³⁰ エーリッヒ・ノイマン、林道義訳(1984)『意識の起源史(上)』紀伊国屋書店、p.233-234。原書は1949年初版である

³¹ ノイマン、前掲『意識の起源史(上)』、p.233。

る。

こうして目覚めた炭治郎は、魘夢の存在に気づき、彼に斬りかかる。しかし、炭治郎は、魘夢の血鬼術によって強制的に眠らされ、一瞬ではあるが、よろけそうになる。だが、次の瞬間に、また、刀を構えて魘夢に向かって走った。こうした状況に、魘夢は、術が効かないのかと訝る。しかし、すぐに、炭治郎は術に掛ったことと、さらに、何度も夢の中で自決して瞬時に目覚めて立ち向かってきていることを理解した。つまり、覚醒するために、炭治郎は、何度も「死と再生」のプロセスを繰り返したのである。もっとも、夢の中の出来事は、たとえそれが夢だと認識できたとしても、脳はそれが本当のここのように感じる。そう考えれば、炭治郎は、夢の中で何度も壮絶な死を繰り返し、また、元型の太陽神話に示されるような、現実に再生したプロセスを経験したのだろう。また、最後に列車と一体化した魘夢に呑み込まれながらも、それを切り裂き、打ち破った描写は、まさに、ノイマンのいう象徴的な「竜との戦い」に勝利した英雄そのものであると言えよう。

3.2 煉獄と猗窩座の戦い―「心を燃やせ」

『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』の制作が報じられた際の、最初のキービジュアルは、2019年10月20日に公開された、炎柱・煉獄杏寿郎のみが描かれている画像である。そして、2020年4月10日公開のキービジュアルは、鬼殺隊の4人、禰豆子、魘夢が描かれ、最初のキャッチコピーとして「その刃で、悪夢を断ち切れ」も併せて発表された。これが、本論の前節において提起した、第1部の主な内容を示すフレーズである。さらに、映画が公開された後の2020年10月25日には、煉獄と猗窩座との激しいぶつかりが描かれている新キービジュアルと、「心を燃やせ」というキャッチコピーなどが新たに公開された。これは言うまでもなく、第2部の内容とメッセージを示すもので、煉獄というキャラクターは、その無意識領域が示すイメージのように、赤く熱く燃え上がる炎の風景であった。

炭治郎は、伊之助と協力して魘夢を倒したが、負傷して動けなくなる。そして、呼吸法による止血のコツを炭治郎に教える煉獄らのところに、突如、上弦の参・猗窩座が現われた。猗窩座は、その姿を現すと、いきなり、地面に倒れ込んでいる炭治郎に攻撃を仕掛けたが、煉獄の咄嗟の反撃で、炭治郎は難を逃れた。そして、煉獄の、圧倒的な強さを持つ者が、なぜ、手負いの者から攻撃したか、との問いに対し、猗窩座は、自分は弱者が大嫌いだから、と答えた。また、猗窩座は、煉獄の練り上げた闘気が「至高の領域に近い」と称賛したものの、命に限りのある人間である故に、至高の領域そのものに踏み入れることができないことを嘆じ、肉体の老いに脅かされることなく鍛錬を続けられ、至高の領域に到達できる強さを手に入れるべく、煉獄に、「鬼にならないか？」と、同胞になるよう誘いをもち掛けた。だが、煉獄は、こうした猗窩座の言葉に対し、次のように答えた。

老いることも死ぬことも／人間という儂い生き物の美しさだ
老いるからこそ死ぬからこそ／堪らなく愛おしく尊いのだ
強さというものは／肉体に対してのみ使う言葉ではない
この少年は弱くない 侮辱するな。(第8巻、pp.36-37)

このように、「無限列車編」の重要なメッセージである、人間の儂さ故の美しさや、本当の強さの意味などは、煉獄のこうした言葉などを通して語られているのである。また、鬼と人間との対比は、こうした二人の会話のみならず、自然の摂理さえ超越するような強さと回復力を持つ上弦の鬼と、素晴らしい斬撃を次々と発したものの肉体が深く傷ついた生身の人間としてその後の激しい戦闘シーンによって対照的に描かれている。そして、まさに、双方ともに一歩も退けぬ極限状況の中で、煉獄は、猗窩座の左腕と左半身を斬ったものの、自身も、その腹を猗窩座の右腕によって貫通された。煉獄は、上弦の鬼であるが故の強さにより、見る見る回復していく猗窩座の「鬼になれ!!」との叫びを、朦朧とした意識で聞きながら、小さい頃に、病気の母に問われたあることを思い出す。「なぜ自分が人より

も強く生まれたのかわかりますか」と聞かれ、真剣に考えたものの、やはり分からないので、煉獄は「わかりません！」と正直に返答した。それに対し母は「弱き人を助けるため」と答え、さらに「弱き人を助けることは強く生まれた者の責務」「責任を持って果たさなければならない使命」（第 8 巻、pp.56-58）であると語ったのである。

これが、幼き煉獄の心にずっと残っている、母の教えである。そして、無意識領域の風景が示したように、炭治郎が根っからの優しい心と揺るぎない信念の持ち主であるのに対し、煉獄は母の言葉を反芻して「弱き人を助けることは強く生まれた者の責務」という信念を不動のものとして生きる人なのである。このように、彼は、早すぎる母の死や、父の失意や無関心といった姿を目にするといった苦しい経験をしていながらも、数々の炎が燃え上がるといった無意識風景が象徴するように、どんなことがあっても決して挫けない、強い心と情熱を持ち続けているのである。そして、母の言葉を思い出した煉獄は、まさに、最後の死力を絞って、右手に固く握る日輪刀を猗窩座の首に振り下ろし、さらに、左手で猗窩座の拳の動きを止めるといった、人間の限界を超えた力を発揮したのである。

猗窩座は、首の半分ほどに日輪刀が食い込み、さらに両手が封じられて動くことができない。そして、間もなく夜が明けようとしており、このままでは太陽に当たって焼け死んでしまう。そのため、一刻を早くその場から立ち去るべく、猗窩座は、自分の両腕を斬って逃走したのである。なお、鬼はその個体差にもよるが、基本的には喰った³²人間の数だけ強くなると設定されている。こうした中、人間を喰らうことよりも、自己の鍛錬に時間を費やした猗窩座は、鬼としては異質的であるといえ、人の心を操って他者の苦痛で愉悦を得る魘夢と異なり、決して卑怯な鬼ではない³³。そのために、炭

³² 鬼が人を喰う話は上代文献にすでに見られ、初出として『出雲国風土記』にその記述が記されている。馬場あき子『鬼の研究』（ちくま文庫、pp.54-75、1988）、小松和彦『鬼と日本人』（角川ソフィア文庫、p.98、2018）を参照。

³³ 猗窩座は、非常に悲しい過去を持つ鬼なのだが、その人間だった頃の出来事は原作 18 巻で明かされる。

治郎からの「逃げるな卑怯者!!」といった言葉に、猗窩座は、自分は鬼殺隊から逃げるのではなく、太陽から逃げているのだと、激しい怒りを覚えながら、闇に姿を消したのである。一方の煉獄は、残された時間が自分にはもうないと悟り、炭治郎らを呼び、最期の言葉を託した。それは、まず、炭治郎が探していた「ヒノカミ神楽」の手掛かりになりそうな情報と、それから自分の弟と父親への伝言、さらに禰豆子のことである。汽車の中で、鬼の禰豆子が血を流しながら人間を守るのを見て、煉獄は、彼女を鬼殺隊の一員として認めるなどと話し、続けて、「胸を張って生きろ／己の弱さや不甲斐なさにどれだけ打ちのめされようと／心を燃やせ」(第8巻、pp.92-95)と、最後に炭治郎らに、もっと成長し、鬼殺隊を支える《柱》となるようにと励ましたのである。言葉を終えた煉獄は、その視線に先に、亡き母の姿を捉えた。そして、「母上、俺はちゃんとやれただろうか／やるべきこと果たすべきことを全うできましたか」と母に問い掛け、それに対して「立派にできましたよ」と母は優しくほほ笑みかけてくれたのである。その言葉を聞いて、煉獄は、まるで幼い子どものような柔らかな笑顔を浮かべ、静かに目を閉じた(第8巻、pp.96-98)。なお、ここでは、黎明に自分を迎えにくるかのように現れた母親が、果たして幽霊なのか、それとも自分の幻影なのか、といったことは問題ではない。つまり、大事なものは、自分が敬愛する母の言い付けを最後まで守り通せた誇りと喜びに満足し、安堵のうちに最期を迎えることができたことが、煉獄の表情からうかがえるということなのである。そして、こうした描写は紛れもなく、マンガやアニメという、「画像で魅せる」コンテンツの秀でた点であろう。このように、「無限列車編」は、作品の中核をなす「想いは不滅。」という言葉の、まさにその「想い」を受け継ぎ、また、それをさらに伝えて行く意味として、煉獄の母親から煉獄へ、さらに炭治郎らへと受け継がれていくのである。

4、煉獄はなぜ死んだのか—why から how, what へと繋ぐ意味—

4.1 伊之助のヌミノース体験

ユングが 1937 年に初めて触れたヌミノース (numinosum) 体験という用語を、最初に提起したのが、ドイツのプロテスタント神学者であるオットー・ルドルフで、彼はそれを「ヌミノーズ」と名付けた。また、「ヌミノーズ」は後に、「ユング派において元型的なものの性質を表わすものとして使われるようになった」³⁴のであるが、『ユング心理学辞典』には、次のような解説がなされている。

ヌミノースは、その作用の源泉がいかなるものであろうと、主体の意思にかかわりなく生じる経験である。……ヌミノースは目に見える対象に帰属しうる性質でもあれば、目に見えない何ものかの現前がもたらす影響でもあり、意識の特異な変容を引き起こす³⁵。

そして、「無限列車編」において、このヌミノース体験が明確に描かれている場面が 2 カ所ある。一つは、魘夢の協力者である炭治郎の「精神の核」の破壊を担当する、結核を患う³⁶青年によるものである。炭治郎の「夢」の「壁」を切り開いて、「無意識領域」へ侵入した青年だが、そこで見たのは、「どこまでも広い／暖か」く感じる、水面と青空がただただ広がる美しい景色であった (第 7 巻 p.109)。この青年は、元来、心の優しい青年であった。しかし、次第に「不治の病の苦しみから逃れるためならば／人を傷つけてさえ良いと思」うようになり、夢を見せてくれるという魘夢の甘い言葉に乗せられ、

³⁴ ノイマン、前掲『意識の起源史 (下)』の林道義訳注、p.668。ルドルフはその主著『聖なるもの』(1917)において、「宗教の本質は「戦慄的かつ魅惑的なもの」である」と同訳注は解説している。

³⁵ サミュエルズ他、前掲『ユング心理学辞典』における「ヌミノース」の解説、pp.127-128。

³⁶ 『鬼滅の刃』において「病」はきわめて重要なキーワードであり、そもそも鬼の始祖である鬼舞辻無残が人間から鬼に変貌したのが、彼の病を治療した医者に起因する。そして、高橋昌明は、鬼と疫病との関係について、古の人々が恐れた天然痘やその他の病気が疫神という形を与えられ、中国の伝説をも組み込んでそれを祓うという文化が、酒吞童子の物語へと転化し鬼王をつくりだした、と考察している。高橋昌明 (2020)『定本 酒吞童子の誕生——もうひとつの日本文化』岩波書店。

鬼の手下となった。だが、炭治郎の心に「共鳴して影響を受け」たため、「光とぬくもりの発元である"精神の核"を前にして／青年は何もできずただ泣いた」のである（第7巻 p.120）。そして、炭治郎の優しさの化身に触れたことで、目が覚めた頃には、本来の心優しい青年に戻り、そのため、青年はもはや、炭治郎に危害を加えることはできなくなってしまった。彼のこうした改心は、まさに、ユングのいうヌミノース体験による「意識の特異な変容」にほかならない。また、第2節において引用した「自己」の意味から考えると、心の全体であると同時に、その中心の核でもある「セルフ〔自己〕」を体験した時の感情は、しばしヌミノース的であり、魅惑的で霊感的な恐れの色を帯びている³⁷ものである。そして、本編で設定された「無意識の領域・精神の核」を体験した青年の改心は、まさしく、こうした聖なる感動によるものである。

また、「無限列車編」のストーリーにおいて、ヌミノースを体験したもう一人が、物語の終盤の伊之助である。前述のように、伊之助はイノシシに育てられた野生児で、普段から頭にかぶっているイノシシの毛皮は、その育て親の形見である。いわば、その毛皮は、伊之助自身のアイデンティティの表れである。また、森に囲まれて育ち、他の生き物との力比べが好きな負けず嫌いで、自ら「山の主」と称している。そして、このような特殊な生い立ちから、炭治郎らと初めて³⁸出会った時は、むしろ、敵対する姿勢を見せていた。だが、そんな伊之助も、「鼓屋敷編」（第3巻）で負傷した後は、「藤の花の家紋」の家³⁹で療養し、炭治郎らとも親しくなった。そして、家の主である老婆は、次の任務に向かう炭治郎一行を送り出す時に切り火をして、「どのような時でも誇り高く生きてくださいませ／ご武運を…」（第4巻、p.50）と祈った。しかし、野生児の伊之助は「誇

³⁷ ホール、前掲『ユング派の夢解釈—理論と実際』、p.18。

³⁸ 伊之助は炭治郎らと「最終選別」（正式に鬼殺隊の隊員になるための資格審査）を同時期に突破したが、誰よりも早く会場を訪れ、また早く会場を後にしたため、「最終選別」の時には、互いに顔を合わせていない。

³⁹ 藤の花の家紋を掲げている家は、恩返しのために、鬼殺隊に無償で手助けを提供している。

り高く生き」る言葉の意味が理解できず仲間にそれを尋ねた。そして、伊之助の問いに対して、炭治郎は、次のように説明した。

改めて聞かれると難しいな…誇り高く……自分の立場をきちんと理解してその立場であることが恥ずかしくないように正しく振る舞うこと、かな。それからお婆さんは俺たちの無事を祈ってくれてるんだよ。(第4巻、p.51)

炭治郎の説明に対して、伊之助は、そこに出てくる「立場」「恥ずかしくない」「正しい振る舞い」などとは、具体的にどんな意味で、どうすればそうなるのかとしつこく尋ね、さらに「なんでババアが俺たちの無事を祈るんだよ／何も関係ないババアなのに」「ババアは立場を理解してねえだろ」と言い放った。こうした伊之助の言動に対し、その答えに窮した炭治郎はムツとした表情をあらわにし、スピードを上げてその場を走り去っていく。ただ、このシーンは、一見するとコミカルに見えるが、実は、伊之助の、自我の統合した人格の成熟や、新たな自己アイデンティティが確立する前の、いわば予備的段階を示すような、とても重要な一場面なのである。

獣同然に育った伊之助は、老婆の親切にホワホワさせられ、また仲間の大切さやありがたさなどを徐々に感じ取りつつあった。だが、彼は、かつて経験したことがないこうした高揚感をどう捉えればいいのか、その時は、まだ、はっきりと分からなかったのであろう。そして、そんな彼に、一つの回答を示したのが、煉獄であった。「無限列車編」において、乗客を守るために自ら戦い、さらに、煉獄の壮絶な最期を目にした伊之助は、「誇り高く生き」ることの意味をようやく知覚する。また、炭治郎の魂の叫びとは対照的に、伊之助は、激しい身震いを覚え、イノシシのかぶり物から涙が溢れ出るほど号泣した。これがまさに、伊之助のヌミノース体験なのである。『ユング心理学辞典』によれば「ヌミノース体験には、強制力をもった莫大な力を体験すること以上のものがある」⁴⁰とされ、さらに「ユン

⁴⁰ サミュエルズ他、前掲『ユング心理学辞典』、p.128。

グは宗教体験においてそれまでの無意識内容が自我の制約を突き破って意識的人格を圧倒するものだと確信していった」⁴¹と、ユングによるヌミノースの解釈を紹介している。そして、この聖なる体験を体感してから伊之助は、仲間と助け合って鬼から人を守り助ける任務を進んで行うようになり、自分の人格の変容を成し遂げたのである。さらに、『鬼滅の刃』の最終の戦いにおいて、伊之助が満身創痍になりながらも立ち上がり、武者震いしながら鬼舞辻無残に言い放った言葉は、仲間を思いやる感情に溢れるものであった⁴²。

4.2 Why から How, What へと繋ぐ意味

第3節にて検討したように、「無限列車編」には太陽神話の構造が認められ、また、死と再生のモチーフが繰り返し描かれている。また、煉獄は、猗窩座によって致命傷を受けつつも、乗客や炭治郎一行はもちろん、さらには鬼に与した人間でさえ、誰一人として死なすことなく、200余人の命を守り抜くのである。そして、炭治郎は、この戦いを煉獄の勝利だと捉え、林の中へ遁走する猗窩座に対して、「いつだって鬼殺隊はお前らに有利な夜の闇で戦ってるんだ!!」(第8巻、pp.82-83)と叫びつつ、憤慨の涙を流した。

ノイマンの、太陽神話における「英雄の勝利が少なくとも一つの新しい認識と意識変化を、意味している」⁴³との指摘から考えれば、「新しい認識と意識変化」は、間違いなく、炭治郎ら3人にもたらされたものである。そして同時に、自分たちを守って命を落とした煉獄の死と、自分の非力さとを、炭治郎が、当然のことながら、非常に悔しく思ったのは言うまでもない。

では、こうした煉獄の死について、心の現象学に対する見地を参考に考えたい。河合隼雄は、心理療法の観点から、愛する人を亡くした患者がよく発する「なぜ、あのひとは死んでいったのか」という「Why?」の問いに対し、その死因について説明しても、当人を満

⁴¹ サミュエルズ他、前掲『ユング心理学辞典』、p.128。

⁴² 吾峠呼世晴(2020)『鬼滅の刃』第23巻第197話「執念」、集英社、pp.16-18。

⁴³ ノイマン、前掲『意識の起源史(上)』、p.233-234。

足させはしないだろうとしている。その上で、河合は、ヘルムホルツの「物理学は Why?の学問ではなく、How の学問である」という有名な言葉を紹介しつつ、Why（どうして）を How（いかに）に変えて思考する重要性を述べた。しかし、How としての答えになお不満を感じた人は、次に、Why を What に変えて、例えば死の問題について、「なぜ死んだのか、との問いを「死とは何か」という問いに変えて考えてみる場合が多い」⁴⁴と河合は指摘した上で、心理学者は、死とは何かということを哲学的に追及するのではなく、死とは何かという質問の背後に、「どのようにして情動が高まり、どのような過程をたどってそれは平衡状態に達するのかという、心理現象をこそ、与えられた課題として追及すべき」⁴⁵だとしている。

先に述べたように、煉獄は、無限列車の戦いに参加した鬼殺隊の3人に大きな影響を及ぼした。特に炭治郎は、なぜ非力な自分が生き残り、誰よりも優しくて強かった煉獄が死なねばならなかったのか、と自問している。この段階を、先に示した河合の主張から見れば、まさに「Why」という段階の思考である。しかし、彼は、煉獄の死に意味を付与するのは、生き残った者の使命であることに気付くのである。つまり、煉獄の死を悲しんでただ意気消沈するだけであれば、煉獄の言い付けを守れていないということで、それは、炭治郎がしてはならないことである。つまり、煉獄が最期に炭治郎たちに残した言葉の数々を思えば、特に「心を燃やせ」の意味を心に刻めば、「Why」よりも「How」の考えを持たねばならないのである。そして、炭治郎は後々の戦闘において、煉獄が、どのように生き、戦い、命を落としたのかといった、その生きざまや死にざまを、いつも思い出すのである。また、「無限列車編」に続く「遊郭編」⁴⁶において、炭治郎たちは、上弦の陸・墮姫らと戦うことになる。そこ

⁴⁴ 河合隼雄、前掲『ユング心理学入門』、pp.2-6。

⁴⁵ 河合隼雄、前掲『ユング心理学入門』、pp.2-6。

⁴⁶ 2021年2月14日、『鬼滅の刃』のテレビアニメ第2期「遊郭編」の放送が決定との情報と共に、ティザービジュアルと第1弾プロモーションビデオも公開され、ファンから期待の声が多く寄せられている。

では、前回の猗窩座戦で上弦の鬼に全く歯が立たなかった炭治郎が、煉獄が残した「心を燃やせ」の言葉を思い出して奮闘し、人の命をいとも簡単に奪う鬼の所業に憤り、町人を守るために命の限界さえ超えそうになるほどの獅子奮迅の戦いを見せる（第9巻）。さらに、「刀鍛冶の里編」（第12巻）では、自分の無能さを嘆く刀鍛冶の小鉄少年⁴⁷に対し、無残を倒したいという自分の思いや、鬼になった妹を助きたいが志半ばで死ぬかもしれないという不安、それでも必ず誰かがやり遂げてくれると信じているといった「次に繋ぐための努力」の大切さを説いたのである。そして、こうした姿は、炭治郎にとって鬼殺隊の死が何を意味するのかという、「What」の意味に対する答えを彼が見いだした、ということにほかならないのである。

なお、鬼と人間との対比が繰り返し描かれている『鬼滅の刃』であるが、単に鬼が悪、人が善という構図ではない。例えば、鬼の中にも鬼殺隊と協力し、無残を倒そうと奮闘する者があり、また一方、力に溺れ、鬼になった鬼殺隊士もいる。しかしながら、「悔い改める者は救われる」といったような、宗教的スタンスを表現する作品ではないことは明言したい。ただ、この点についての論述は紙幅制限のために割愛させていただき、ここでは言及するにとどめる。

5、おわりに

本稿は、『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』の内容を、分析心理学の手法によって考察したものである。その結果、「無限列車編」では、さまざまな要素が対比的に描かれつつ、多くのメッセージが内包されているのが明らかとなった。劇場版アニメは前述のように、原作の一部を切り取って映画化したもので、ストーリーは、全26話の第1期テレビアニメの続きを描くものである。ただ、劇場版アニメは一般的に、一話完結の作品、もしくは、原作を新たにアレンジしたり、シリーズ作の最終話を映画化にしたりするものが多く、話の途

⁴⁷ 「刀鍛冶の里編」に登場する少年。「刀鍛冶」とは鬼殺隊が鬼狩りに用いる日輪刀を打つ職人のことである。

中を切り取って映画にしたものは、見せ方としてはむしろ珍しいものといえよう。そして、一部の切り取りの内容にも関わらず、クオリティーの高い映像や音楽、声優の演技、さらに心を揺さぶる演出などによって、いわゆるオタク層のみならず、それ以外の観客も映画館に呼び込んだ。また、劇場版アニメの上映に際して、新たに付け加えた描写がいくつかあるが、その代表的な一つに、冒頭のシーンが挙げられる。劇場版の冒頭では、「どこまでもつづくように見えるその墓地のなかを、ふたつの人影が、よりそいあって歩いていく」（ノベライズ版、p.6）様子が描かれている。この二人こそ、鬼殺隊の当主である「お館様」こと産屋敷耀哉とその妻で、鬼によって殺された多くの隊士の墓参りをしているお館様は、次のように語った。

鬼がどれだけの命をうばおうとも、人の想いだけはだれにも断ち切ることができない……どれほど打ちひしがれようと、人はまたたちあがって戦うんだ。（ノベライズ版、p.8）

そして、原作にはない、この冒頭シーンにおいて触れられた「人の想い」とは、まさに、『鬼滅の刃』という作品の核心の部分であり、「What」に対する答えも、また、ここにある。なお、原作マンガでは、こうした言葉がお館様の口からはっきりと語られたのは、第16巻第137話「不滅」における、鬼の始祖である鬼舞辻無残と対峙するシーンであり、劇場版の冒頭シーンは、いわば、前借した場面描写とも言えるものである。つまり、劇場版のプロローグとエピローグは、お館様の墓参りから始まり、翌日の同じくお館様の語りで終わるというサイクルをなしており、「無限列車編」は、その一夜の出来事を描いているという構成になっている。また、そこには、鬼と人間、闇夜と夜明け、死と再生など、幾重にも対比が巡らされているのである。そして、かの有名な新聞広告⁴⁸によって示された、作

⁴⁸ コミックス最終巻となる23巻の発売を記念した広告が2020年12月3日に「読売新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「産経新聞」「日本経済新聞」など全国紙5紙の夕刊に全面で、さらに、コミックス累計“1億冊感謝記念広告”として連載を応援し続けてくれる読者への作者からの感謝のメッセージなどが翌4日に同5紙の朝刊に計4面で、それぞれ掲載された。

品の含有する、強さと不滅の本当の意味とを凝縮した「夜は明ける。想いは不滅。」というフレーズは、短いながらも、同作の最も重要なメッセージなのである。

なお、『鬼滅の刃』の原作者である吾峠呼世晴について、その詳細は公表されていない。ただ、鬼の造形や設定、また幾世帯の剣士の思いを描いてきたところから見れば、民俗学や文学などの学問的分野に、相応の嗜みを持つ人物であることは疑いない。さらに、「無限列車編」における夢と無意識、元型、精神の核などの設定やその描写と、それに対する本論での考察において、分析心理学の理論にもかなりの心得があるマンガ家ではないかと思慮されよう。また、今回は、分析心理学の理論から、「無限列車編」の内容を考察したが、同作のテーマは、普遍的価値観を改めて思い出させてくれたものだからこそ、年齢性別の関係なく少年マンガという枠組みを超えて、多くのファンの心に響いたのだろう。そして、「無限列車編」は、原作の全体から見れば、まだ《柱》たちの顔見せのような段階であることは前述した通りであり、本稿執筆時において、テレビアニメ第2期「遊郭編」の2021年中の放送決定が公表された。そのため、炭治郎一行や《柱》たちの今後の活躍、他の上弦の鬼や新キャラの登場、物語の核心に迫る展開など、続編に高い期待が寄せられ、高いクオリティを誇る ufotable 社がどのように映像を通してストーリーを表現するか、既に多くのファンが心待ちにしているであろう。本論は、「無限列車編」のみを対象に、分析心理学の視点からのアプローチに終始したものであるが、今後においても機会があれば、『鬼滅の刃』の人物像なども考察したいと思う次第である。

テキスト

吾峠呼世晴（2016-2020）『鬼滅の刃』第1～23巻、集英社

吾峠呼世晴原作・松田朱夏著（2020）みたらい文庫版『劇場版 鬼滅の刃 無限列車編』ノベライズ、集英社

参考文献（五十音順）

- A・サミュエルズ他著・山中康裕監修（1993）『ユング心理学辞典』
創元社
- エーリッヒ・ノイマン、林道義訳（1984/1985）『意識の起源史』（上）
（下）紀伊国屋書店
- カール・グスタフ・ユング著、松代洋一・渡辺洋一訳（1995）『自我
と無意識』第三文明社
- カール・グスタフ・ユング著、林道義訳（1999）『元型論〈増補改訂
版〉』紀伊国屋書店
- 河合隼雄（1993）『ユング心理学入門』培風館
-----（2016）『神話と日本人の心』岩波文庫
- 吾峠呼世晴（2019/2021）『鬼滅の刃公式ファンブック 鬼殺隊見聞録』
（一）（二）集英社
- 小松和彦（2018）『鬼と日本人』角川ソフィア文庫
- ジェームズ・A・ホール著、氏原寛・片岡康訳（1985）『ユング派の
夢解釈—理論と実際』創元社
- 沈美雪（2021）「新冠疫情下の「鬼滅」奇蹟：《鬼滅之刃》中の疾病
書寫、愛、残酷與慈悲」《輔仁外語學報：語言學、文學、文化》
第17号
- 高橋昌明（2020）『定本 酒吞童子の誕生——もうひとつの日本文化』
岩波文庫
- フィリップ・ウィルキンソン編・大山晶訳（2013）『世界の神話伝説
図鑑』原書房
- 馬場あき子（1988）『鬼の研究』ちくま文庫

新聞記事（掲載日順）

- 「(社説)「鬼滅」のヒット はかなさを力に変えて」『朝日新聞』朝
刊、2020年12月30日
- 「「鬼滅」と鬼退治と日本人 国際日本文化研究センター名誉教授・
小松和彦さん」『朝日新聞』夕刊、2021年1月16日